

精神障害者の就労支援



社会福祉法人ころんの実践

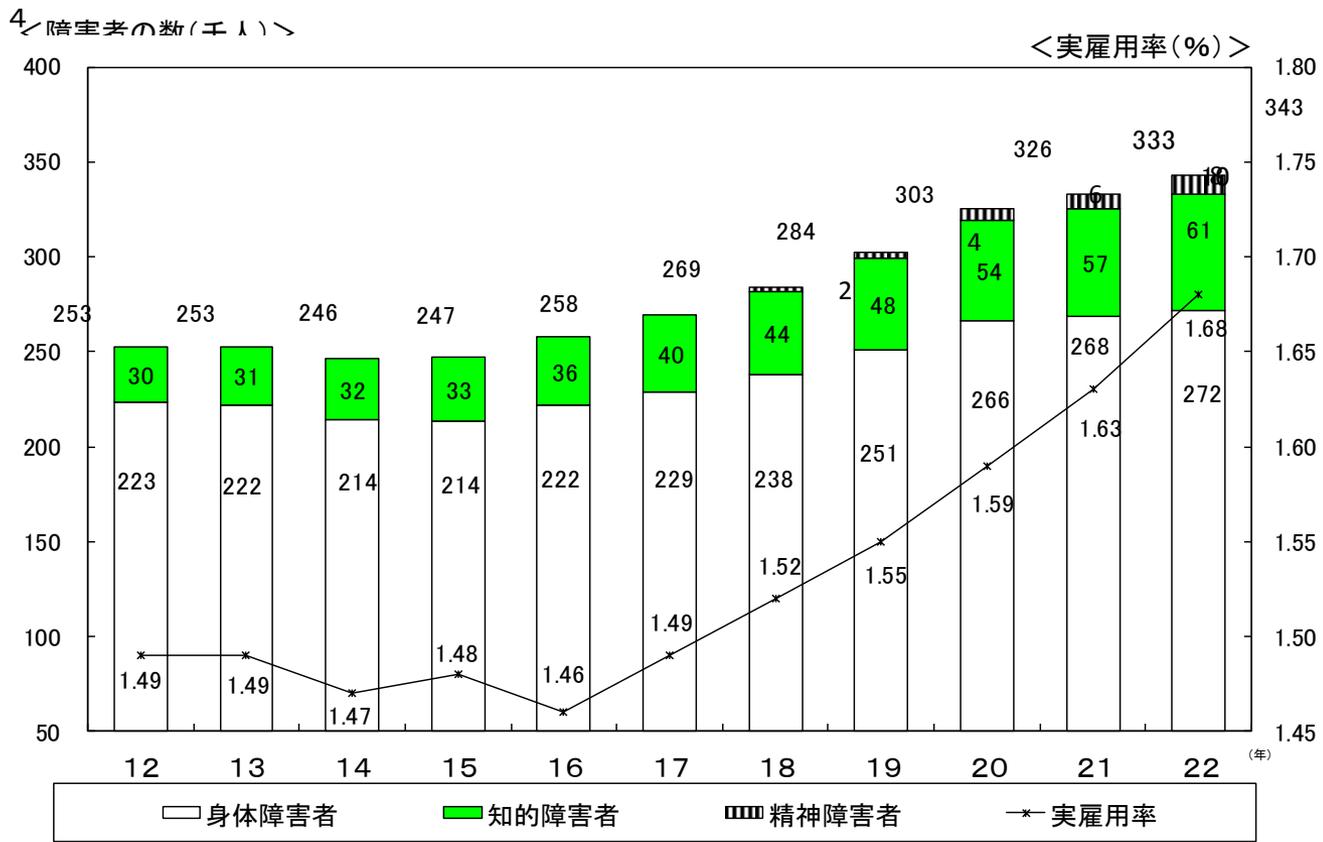
障害者数について

(単位:万人)

	総数	在宅者	18歳以上 65歳未満	施設入所者	雇用者
身体障害児・者	366.3	357.6	123.6	8.7	34.6
知的障害児・者	54.7	41.9	27.4	12.8	7.3
精神障害者	323.3	290.0	180.9	33.3	2.9
総計	744.3	689.5	331.9	54.8	44.8

身体障害児・者のうち、在宅者は、厚生労働省「身体障害児・者実態調査」（平成18年）、施設入所者は厚生労働省「社会福祉施設等調査」（平成18年）等、知的障害児・者のうち、在宅者は、厚生労働省「知的障害児（者）基礎調査」（平成17年）、施設入所者は厚生労働省「社会福祉施設等調査」（平成17年）等、精神障害者数は、厚生労働省「患者調査」（平成20年）、雇用者（従業員5人以上規模の企業に雇用されている者）は、厚生労働省「障害者雇用実態調査」（平成20年）による。

障害者雇用の状況(障害者の雇用数)



(注) 雇用義務のある56人以上規模の企業の集計
 「障害者の数」は以下の者の合計。
 ・身体障害者、知的障害者、重度身体障害者である短時間労働者、重度知的障害者である短時間労働者は1人カウント
 ・重度身体障害者、重度知的障害者は2人カウント
 ・精神障害者である短時間労働者は0.5人

こころんマップ

矢吹町



グループホーム・
ケアホーム
あけぼの荘

中島村

こころん矢部農場



こころんファーム

なごみの家

地域活動支援センター 1型
相談支援事業
居宅介護支援事業
共同生活援助・介護

就労移行支援事業 10人(19)

就労継続支援事業B型 20人(41)

就労継続支援事業A型 10人(5)



泉崎村

こころん工房



白河市

こころや

泉崎村

グループホーム・ケア
ホームこころんはうす

生活支援センターこころん



相談支援

- ・いつでも相談できる相談支援
- ・社会参加活動の支援
- ・地域活動支援センター

その人らしい
地域での暮らしを
支える

就労支援

- ・就労移行支援
- ・就労継続支援A型又・B型
- ・障害者就労・生活支援センター
- ・ジョブコーチ

生活支援

- (すまいと暮らしの支援)
- ・グループホーム
 - ・ケアホーム
 - ・ホームヘルプサービス

就労支援

《多機能型》

- 就労移行支援 定員10人(登録19)
- 就労継続支援A型 定員10人(登録5)
- 就労継続支援B型 定員20人(登録40)

- * 定員以上の利用者がいないと運営できない
- * A型は最低賃金で契約しているので、登録者増やせない

利用者の障がいの種別（こころん）

- ・ 統合失調症 躁うつ病 てんかん 神経症
気分障がい（うつ病） 人格障がい
知的障がい 発達障がい 身体障がい
高次脳機能障がい その他

様々な障害の方が混在している
対応が困難

こころんの就労支援の流れ

生活支援センターこころん(地活)

相談支援



就労支援

施設外支援



こころや・農場・なごみの家



就労・生活
支援セン
ター

就労移行支援

就労継続支援B
型

就労継続支援A型

ジョブコーチ支援

ハローワーク

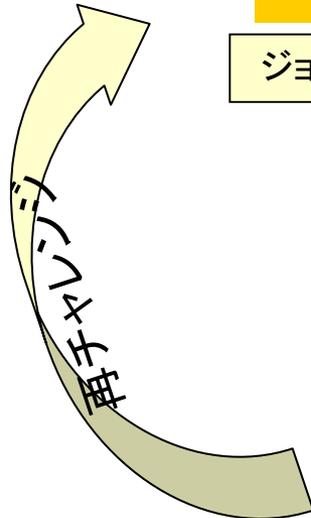
求職活動



企業

就職

就職



こころんの循環型事業

(養鶏)
矢部農場



こころんファーム

鶏糞



野菜

こころん工房



かぼちゃプリン



障害者雇用
農業従事者人材育成

直売カフェ・こころや



移動販売



こころやで販売



様々な仕事が体験できる

施設外就労・支援から一般雇用へ



I 病院での洗濯業務

- ・タオルを消毒・洗濯・乾燥
- ・短時間から訓練開始



II 紙袋工場で働くYさん



一般就労移行した人

年度	就職者	離職者
2004	1	
2005	3	
2006	4	1
2007	4	3
2008	5	2
2009	4	0
2010	2	0
2011	5(内3名がA型)	2
2012	8(内2名がA型)	1
合計	36	9

主な就職先

- 郵便局（業務補助）
- スーパー（品出し）
- スーパー（販売）
- ガス会社（ガスの配達）
- 総合病院（薬務課）
- 会田病院（洗濯）
- 菓子店（菓子製造補助）

- 機械製造工場（事務）
- 精密機械工場（倉庫整理）
- 紙袋製造工場（製造）
- 農場（農業）

精神障害者への対応について 職場で共有（事業所・企業）

- 話しやすいゆったりした環境をつくる。
- 混乱したとき、まず緊急であるかそうでないかを判断する。
（ほとんどの相談は緊急ではない）
- 緊急な場合はすぐに対応する。（早く対応することによってすぐに安定します）
- 混乱していることが多いので、問題を整理してあげる。
- 時には、待ってもらおうようお願いする。
- 話をよく聞き、話す内容に対して否定しない。
- 説明するときは本人にわかりやすい言葉で説明する。
- 自分だけで対応判断はしない。ひとりで抱え込まない。
- 相談を繰り返えすことによって、信頼関係が構築できる。

精神障害者への就労支援

- まず短時間から
- 精神障害者ステップアップ雇用の活用
- ジョブコーチ支援の必要性
- ハローワーク、障害者就労・生活支援センター等との連携
- 企業への支援（利用できる制度や助成金等の情報提供）
- 企業への支援（困ったときの対応）
- 就職後も支援（いつでも相談、ピア活動）

支援者に求められること

- サービスを利用したての利用者は、少しの就労も困難であり、当たり前にはできないことも多いのですが、周りにいる仲間の様子をみたり、話したりしながら、「やりたい」という気持ちが生まれるまで「待つ」こと、それでも「必ずできるよになる」と思うことが支援者に求められる。
- 利用者が、よくも悪くも変化していくことは、自然にそのようになるのではなく、周りの関わりが大きく影響しているわけで、様々な問題のなかからも成長していけるよう支援していくこと。

安心できる職場環境

- 仕事上の役割がしっかりと与えられる。
- 適切な指示。
- 何かあれば相談することができる人がいる。
- づき合いは「ほどほど」に。
- ギスギスした人間関係がない

*** この安心できる環境は、誰にとっても働きやすい環境ということになるのかもしれませんが**

精神障がい者が安心して地域で暮らせる(働く)ためには

- 食事、住まい、安心できる環境(よい人間関係)があると病気も良くなり働ける。
- サービスを組み合わせて、その人に合った方法での支援。(サービスが無いはない)
- いつでも相談できる人がいる。
- 病気は良くならないけど働ける、やりたいことができた。

* というゴール。

ご清聴ありがとうございました